聖書日課『からし種』2023.8.6－8.13

8月6日 （日） Ⅱ歴代 11章	**「主はこう言われる。上って行くな。あなたたちの兄弟に戦いを挑むな。それぞれ自分の家に帰れ。こうなるように計らったのはわたしだ」（4節）。**主がイスラエルを南北に分けられたのは、両国で主を証しする役割を分担するようにというみこころだったのかもしれない。富や栄光さえも、多すぎれば重荷。世界の国々が役割を分担しながらつながって行けるように。
7日 （月） Ⅱ歴代 12章	**「彼らはシシャク（エジプト王）に仕える者となり、わたしに仕えることと、地の王国に仕えることとの違いを知るようになる」（8節）。**神から離れれば自由になるかというと、実はいろいろなものに支配されることになる。「仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために」（マタイ20：28）来られたキリストにこそ仕えたい。
8日 （火） Ⅱ歴代 13章	**「しかし、我々にとっては、主が我々の神であり、我我は、その主を捨てはしない」（10節）。**ユダの人々は確かに「主を捨てなかった」。つまり、前方からも後方からも攻められた時「主に助けを求めて」（14節）叫んだ。祭司たちが吹いたラッパは勇壮というより悲鳴のような音であっただろう。窮地に陥っても絶望せず、主に助けを求めることを思い出せるように。
9日 （水） Ⅱ歴代 14章	**「『主を求めたからこそ、主は周囲の者たちから我々を守って、安らぎを与えてくださったのだ。』そこで彼らは建設を始め、完成した」（6節）。**主を求めることを心に留めたユダの人々は、町の建設を始めて完成することができた。建物はハコにすぎないけれど、主を求めて開始し主を覚えつつ完成するその工程の中で成長させていただけるのかもしれない。

メール配信登録メール　senfkorn.obc@gmail.com　　大井バプテスト教会

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

聖書日課『からし種』2023.8.6－8.13

10日 （木） Ⅱ歴代 15章	**「わたしに耳を傾けなさい....もしあなたたちが主を求めるなら、主はあなたたちに御自身を示してくださる。しかし、もし主を捨てるなら、主もあなたたちを捨て去られる」（2節）。**預言者の言葉の前半には励まされる。その通りアサは積極的に主を求め、国は安定した。しかし、後半の「警告」にも耳を傾けたい。「立っていると思う者は、倒れないように」（Ⅰコリ10:12）。
11日 （金） Ⅱ歴代 16章	**「主は世界中至るところを見渡され、御自分と心を一つにする者を力づけようとしておられる」（9節）。**預言者を通じての叱責はあるけれど、主は今もなお見渡しておられるはず。なのに、「彼に対して激しく怒って」（10節）しまったアサ。その後は「病の中にあっても、主を求めず、医者に頼った」（12節）。ずっと主を求めて来たのに、心を閉ざしてしまったのか。
12日 （土） Ⅱ歴代 17章	**「彼ら（ヨシャファト王の高官やレビ人、祭司たち）は主の律法の書を携え、ユダで教育を行い、ユダのすべての町を巡って、民の教化に当たった」（9節）。**ソロモン王はひとりだけ卓越して賢かったが、ヨシャファトは国全体で主を知る知識を分かち合った。このために彼の国は諸国の尊敬を受け、貢ぎ物や税が届けられることになったのだろう。
13日 （日） Ⅱ歴代 18章	**「ミカヤは『主は生きておられる。わたしの神が言われる事をわたしは告げる』と言って、王のもとに来た」（13－14節）。**家臣も預言者も皆が王のご機嫌取りに終始していた時に、ミカヤだけは主の言葉に従った。そのためミカヤは逮捕されてしまうが、直後に主は自らの言葉の正しさを証明されたのだった。ミカヤの信仰をもって今日、主に従うことができるように。

大井バプテスト教会